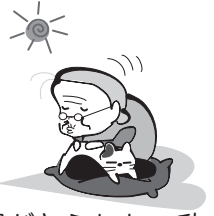


介護の質の向上のために

私の母が認知症グループホームに入居して1カ月半たってから疥癬にかかっていることが判明した。疥癬には強力な感染力のあるノルウェー疥癬と、よほどの接触がなければ移らない通常疥癬と二種類あり、母は通常疥癬だったので、他の感染者はいなかった。ところが、母のグループホームにはノルウェー疥癬に対応する指示書しかなく、隔離、部屋の鍵を閉める拘束、衣類の熱湯消毒という措置がとられた。私はたまたまインターネットで二種類の疥癬があることを知ったので、保健所の指導をお願いして、グループホームの指針を変更し、通常の介護に戻すことができた。



他の介護施設職員に聞いても、疥癬が二種あることについて知らない人が多い。必要のない隔離は認知症患者には悪影響を及ぼす。区として正しい知識の普及に取り組んでほしい。

また、グループホームで認知症患者が暴力をふるうからと精神病院へ転院を勧められたが、他の介護施設に移ってからは、暴力行為もなく過ごしている、グループホームでの対応に問題があったのではないかと区民の方から手紙を頂いた。区はグループホームの質が千差万別であることについてどのような取り組みを考えているのか。

区：研修を年3・4回行っている。1回あたり50人定員の80～90%が参加。

せの：どういう研修を何人受けたかという実績報告が公表される仕組みはできないか。

区：運営基準等で規定するのは難しいが、施設を選ぶ際の視点になるので、検討したい。

せの：入所者が近所に買い物に行くことができるというのもグループホームの良いところのはずだが、冷凍野菜が配達されているのが現状。食材を近所で購入し、区内業者を活用する体制を求められないか。

区：事業者の公募の際に区内事業者からの購入、区民の雇用なども判断材料の一つとしたい。

介護職員の低賃金は大きな課題である。高齢者の気持ちに寄り添う介護職員の育成に区としても尽力して欲しい

子どもの貧困対策の充実を



- 。 私が自宅で無料塾を始めたのは5年前。こどもの貧困が話題になり、各地で無
- 。 料塾が取り組まれ始めたころだった。「荒川区に無料塾はないの？」という電話が
- 。 かってきたのがきっかけだった。子だくさん家庭の赤ちゃんのお世話に行った産後サポネットのボランティアが、全国フェミニスト議員連盟の私の知人に話したのは「中三の長女が、勉強はわからないし、塾には行けないし、勉強する部屋もないし、高校には行かない」と言っているというものだった。私の自宅で分数

の計算から始めた学び直し。その子は今年成人式を迎え、看護師をめざして大学に通っている。様々な場所を借り、多くの方々に協力してもらって、無料塾を2年間運営し、議会でも要望をかさね、教育センターで「学びサポート」が区の直営で実現した。

実はその時、NPOで食事付きの学習支援を目指していたのだが、区の直営で始まることになり、棚上げに。その後、学びサポートに集った先生たちが加わり、「こども村ホットステーション」が中高生の生活支援・学習支援の居場所として、東尾久に社会福祉協議会の協力で開設に至った。今年4月からは、「こどもの居場所支援事業」として150万円の予算がつき、新たに、町屋でも学習支援・生活支援の居場所が運営されている。

教育委員会は各学校で寺子屋事業として、無料学習の場を設けることにもなった。

生活保護を受けている世帯の高校進学率は一般家庭と格差があり、高校中退の子どもたちの学び直しや就労支援など、課題は多い。あらゆる分野での取り組みの拡大を願う。

**区民の力でこども食堂を
区内各所に**

子どもの孤食・貧困の支援のため、子どもたちと楽しく一緒に食べようと全国で地域住民が奮闘している。ぜひ、荒川区でも地域力を発揮したいものだ。